

第45回 箕面市地域公共交通活性化協議会 会議録

1. 日時

令和3年11月29日（月） 午前10時00分～午前11時30分

2. 場所

箕面市役所 3階 委員会室

3. 出席者

(会長)

- ・箕面市副市長 柿谷武志

(副会長)

- ・箕面市地域創造部地域創造推進監 岡本秀
- ・大阪大学大学院工学研究科教授 土井健司

(監事)

- ・箕面商工会議所副会頭 松出末生

(委員)

- ・富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科准教授 猪井博登
- ・阪急電鉄株式会社交通プロジェクト推進部長 奥野雅弘
- ・北大阪急行電鉄株式会社常務取締役延伸事業部長 岩元仁
- ・阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部部長 野津俊明
- ・大阪モノレール株式会社総務部長 白根忠
- ・みのおの交通を考える会の代表 永田よう子
- ・箕面市身体障害者福祉会会長 羽藤隆
- ・大阪船場繊維卸商団地協同組合専務理事 寺本正満
- ・東急不動産 SC マネジメント株式会社みのおキューズモール総支配人 志村敦史
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（総務企画） 中西克之
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（輸送） 河原正明
- ・国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所管理第二課長 森俊彦
- ・大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課長 岡部哲久
- ・大阪府池田土木事務所維持保全課長 今井浩文
- （代理出席）地域支援・企画課企画グループ課長補佐 遠藤淳
- ・国土交通省近畿運輸局交通政策部交通企画課長 片田一真（オブザーバー）
- ・箕面市教育委員会子ども未来創造局長 岡裕美
- ・箕面しみどりまちづくり部長 藤田豊
- （代理出席）みどりまちづくり部副部長 松政秀史

(欠席)

- ・一般社団法人大阪タクシー協会専務理事 井田信雄
- ・阪急バス労働組合副執行委員長 日田守
- ・大阪府箕面警察署交通課長 大西将仁

- ・国土交通省近畿運輸局自動車交通部旅客第一課長 本田泰彦（オブザーバー）
- ・箕面市市政統括監 小林誠一
- ・箕面市健康福祉部長 北村清

以上、委員25名のうち20名出席、オブザーバー1名出席

4. 議 題

- (1) 運行状況について
- (2) オレンジゆずるバス新車両のお披露目会について
- (3) 地域公共交通計画（素案）の方向性に係るパブリックコメントでの市民意見に対する市・協議会の考え方（案）について
- (4) 地域公共交通計画の策定に向けたスケジュールについて
- (5) その他

5. 議事要旨

- (1) 運行状況について

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○コロナ禍の影響による、路線バスの減収はどのくらいか。

→6月～10月は昨年度を下回っており、20%弱となっている。

○収支率と燃油の高騰について説明いただきたい。

→燃料費は著しく高騰しており、バスの運行経費に大きく影響する。

→収支率については、運行収入を運行経費で割ることで算出している。運行経費については、令和2年度は決算値119,850,812円、令和3年度は予算値124,241,671円を用いて算出しているが、決算時には燃料単価等を実績値に置き換え決算数値としている。

- (2) オレンジゆずるバスの車両更新について

【意見・質疑なし。】

- (3) 地域公共交通計画（素案）の方向性に係るパブリックコメントでの市民意見に対する市・協議会の基本的な考え方（案）について

【原案を一部修正することで承認する。】

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○公共交通の維持確保における事業者の役割と行政の役割という点をどのように説明していくと考えているか。

→各交通モード毎に、特性と箕面市の公共交通における役割を分類してご確認いただき、地域公共交通計画にも記載をする。

○社会実験路線廃止後の代替手段について、説明を行うべき。

→運行頻度の調整、オレンジゆずるバスの代替、その他の検討など利用者数により変わると考えている。その辺りの指標については、地域公共交通計画もしくはオレンジゆずるバス路線再編の際

に考えていく必要があると考えている。

- 阪急バス、オレンジゆずるバス、オレンジゆずるタクシー以外で考えられる交通手段はあるか。
→今運行している鉄道、通常のタクシーの他、自動運転やAIを活用した乗合モビリティ、大阪府内市町村で導入が進んでいるデマンドタクシーなどの実証・研究が進んでおり、箕面市においても情報収集を進めている。

- 北大阪急行延伸に伴い、バスや自動車分担率が下がるとのことだが、詳しく教えて欲しい。
→今までバスや自動車以北千里、千里中央に出ていた人が、鉄道延伸・新駅開業に伴い駅勢圏に入ることから、実績からも、徒歩、自転車で駅にアクセスし、鉄道利用へ転換することが見込まれる。
→高低差のある箕面市において、統計は反映されないことも思慮されるが、見込みはあるのか。また、バス路線の一部廃止や高齢化により、車の需要が増えることも考えられるが。
→利用者アンケートにより、新駅近辺のバスの利用者の約8割が徒歩で鉄道に行くというような状況が見て取れる。また、高齢化に伴う、移動手段の確保の重要性は認識しているが、路線バスでは、その維持のため一定の収入が必要であることから、その手段が必ずしも路線バスではないと考えており、利用者の実態に応じたモビリティを考えることが重要と考えている。

- 意見ではあるが、路線バスにおいて、朝夕は収支が見込めるものの昼間は見込めないということがある。内部補助が難しい状況であれば、パブリックコメントの意見でもあったが、市が昼間便に支援をする路線補助ということも検討するところに来ているのではないか。
→フィーダー型において、収支のとれる時間とれない時間があり、収支の見込めない昼間便については行政が担うという事例はヨーロッパなどで見られ、その維持のため交通税が課されているところもある。日本の都心において、そのような事例はなかなか見られず、フィーダー型でも民間路線として成り立たない路線となるが、そのような事例は他であるか。
→国として、紹介できる事例はない。
→府として、紹介できる事例はない。

- 今回のパブリックコメントにおいて、オレンジゆずるバスのことや運賃、ダイヤについては、路線が決まった後に議論するとされているが、過去のオレンジゆずるバスの増便の要望についても収支の関係から実現していない状況や、本格運行までにルート変更が度々行われたことなどから、市民は不安に感じている。また、鉄道の開業に合わせて利便性が向上すると見込んでいたにもかかわらず、路線の一部廃止や、速達性と引き換えの経済負担もあることから、市民の目がシビアになる点は理解できる。議論の余地があると思えるような回答や出来る可能性などについて、丁寧に回答すべきと考える。

- 今回の社会実験の重要なポイントは、市等が費用負担を担い、利用者が伸びなければ廃止するという点に留まらず、事業者、行政、地域住民の関係性を変えていく社会実験であること。事業者が独自採算での運行が求められる中、その垣根を越え、行政としては一定の財政負担を伴う可能性を持ち、地域住民は路線を活用するよう工夫する。関係性の再構築の場としての社会実験として示して

いってはどうか。

→今回の延伸にあたり、民間事業者である阪急バスは独自で路線再編、便数を決定することもできるが、少しでも利便性を向上させる観点で協議をし、難しい点については、行政が一定負担をしながら社会実験をし、また、阪急バスさんにおいても、事業者で費用負担のリスクを背負い社会実験をし、こうして議論をしている画期的な事業であると考えているが、事業者としてどのように考えるか。

→ご支援いただきながら、限られた輸送資源の中で、より便利に使っていただけるよう模索したいと考えており、市民含めてこうして協議するのは初めての経験である。

→箕面市に近い事例として高松市がある。高松市では新駅が2駅開業するが、新駅開業後、一定の交通行動の変容を見極めて、段階的に路線を再編していくトリガー方式を採用しており、合意形成のポイントとなっている。需要に応じて、供給を最適化していくところで進めているもの。

○まだ議論の余地はあるかもしれないが、継続協議をするという点は将来に投げているだけではないという点や社会実験について、もう少し追記して説明する必要があると考えるが、回答をしていくことが重要であると考えている。

→社会実験について、市民はマイナスイメージがあると考えている。行政、事業者ともに負担を負い実証するのだからこそ、理解いただく必要があるので、丁寧な説明を入れていくべきと考える。

○社会実験における採算性の検証というのは、あくまで路線バスにおいてのことであり、採算性がとれないとなった場合においても、別の交通モードを検討するということが基本的な考え方。採算性が合わない場合においては、そのモードについて、さらに議論していくとし、パブコメの回答を一部修正することで進めていきたい。ご意見あれば12月6日までに事務局まで願います。

(4) 地域公共交通計画の策定に向けたスケジュールについて

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○パブリックコメントへの回答時期と回答方法について。

→回答時期は、12月下旬から1月下旬頃までを予定しており、市ホームページの他、パブリックコメントの資料を配架していた市内公共施設に回答を配架する予定である。

→これまでの間、パブリックコメントに対して丁寧に回答をしていくと言っている。市民に理解を求めるためにも、パブリックコメント実施時と同様に、市民説明会を開催すべきではないか。

→回答に当たっての説明会の開催は予定していないが、2回目のパブリックコメント時に行う市民説明会の中で、パブリックコメントを受けての変更内容などを紹介させていただく予定である。また、パブリックコメントでは、類似意見に対して一括して回答するケースが多いが、協議会において、パブリックコメントに対して丁寧に回答すべきとの意見を受け、1件毎に個別に回答を作成している。

→10名以上集めていただければ出張説明会を行わせていただく制度があるので、ご要望があればご活用いただきたい。

(5) その他

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○国立循環器病センターの移転、大阪大学外国語学部の移転に対応するため、箕面市域のバス路線について、12月18日（土）よりダイヤ変更を行う。粟生団地線、箕面山麓線、粟生団地から茨木に向かう路線で便数調整を行い、石橋から茨木に向かう路線、千里中央から小野原東に向かう路線で時刻変更を行うことが主な内容。11月30日より阪急バスホームページで広報し、順次、バス車内、バス停に掲示していく。

→新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した変更か。考慮されていない場合、今後、その判断を行うことがあるか。

→新型コロナウイルス感染症の影響は加味していない。そのため、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復状況については注視していく必要があると考えている。

以上